

令和 8 年 3 月 10 日 開 会

令和 7 年度第12回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

## 令和7年度 第12回教育委員会定例会

### 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和8年3月10日(火)	教育長 明石 浩久	教育総務課長 小池 康之
午後2時30分 ↓ 午後3時40分	教育委員 吉富 和夫	学校教育課長 川崎 史明
	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大迫 隆男
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福里 由加	

### 会議要旨

#### 1 開会

定足数に達しており、令和7年度第12回教育委員会定例会を開会した。全ての議事事項及びその他事項を、非公開にする旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

#### 2 前回会議録の承認について

令和7年度第11回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

#### 3 議事

議案第3号 令和8年度「垂水市の教育」基本方針について

議案第4号 令和8・9年度の学校医、学校歯科医の委嘱について

#### 4 その他

#### 5 動議の討論等

#### 6 委員並びに教育長及び課長報告

#### 7 閉会

## 議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
議案第3号 令和8年度「垂水市の教育」基本方針について	垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第11条第1号の規定に基づき、会議の議決を求めるもの	特記事項なし	原案可決
議案第4号 令和8・9年度の学校医、学校歯科医の委嘱について	学校保健安全法第23条第3項の規定により、委嘱することについて教育委員会の承認を求めるもの	特記事項なし	承認

## 議 事 内 容 等

3 議 事  教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	議案第3号 令和8年度「垂水市の教育」基本方針について (非公開)  (原案可決)
学校教育課長	議案第4号 令和8・9年度の学校医、学校歯科医の委嘱について (非公開)  (承認)
4 その他  教育長	令和8年第1回垂水市議会定例会における一般質問等について(報告) (教育委員会関係分を資料に沿って説明)  瀬戸口藤吉翁の顕彰事業の質問内容について説明をお願いします。

社会教育課長	<p>篠原議員から、瀬戸口藤吉翁の顕彰事業について質問されました。</p> <p>特に、瀬戸口藤吉翁の愛用されたピアノの寄贈についてお答えいたしました。</p> <p>昨年8月、お孫さんの瀬戸口典久様から、垂水市へ寄贈をしたいという申し出がありました。12月に上京し、現況確認や瀬戸口典久様のご意向を確認したところです。来年度、垂水市文化会館に、ピアノを運搬し、市民の皆様に気軽に触れ合っていただけるよう、展示したいと考えております。今後、4月末にピアノを運搬し、6月のふるさとコンサートの際、お披露目するよう計画しております。</p>
福里委員	<p>感王寺議員からの、高校授業料の無償化拡充が不透明であるが、垂水市独自の救済策の内容についてお願いします。</p>
教育総務課長	<p>現在、国の施策として、所得に応じて授業料等を支給する「高等学校等就学支援金等事業」が、平成22年度から実施されており、令和8年度から、所得制限の撤廃や支給上限額の引き上げなど、事業の拡充が予定されているところですが、衆議院議員選挙の影響のため、「高等学校等就学支援金の支給に関する法律」の改正法案が、4月までに成立するか懸念されていることから、市独自の救済支援策は講じないのかとのご質問をいただいたところです。</p> <p>本市独自の新たな救済策の実施は難しいと考えており、無利子で学費をサポートしている「垂水市奨学資金」を活用していただけるよう、改めて、保護者に周知する旨をお答えしました。</p>
社会教育課長	<p>スマホ・タブレット・ゲーム機等の「家庭のルール」7つのルール、周知チラシにつきまして、垂水市PTA連絡協議会において作成された、家庭で守る7つのルールです。今後、周知を図ってまいります。</p>
学校教育課長	<p>今回は、ルール7番目、各家庭で話し合っ決めていただく、「わが家のルール」が、一番の大きなポイントになっております。</p>
5 動議の討論等	<p>(なし)</p>
6 委員並びに教育長及び課長報告	<p>委員並びに教育長及び課長報告に入る。</p>
田之上委員	<p>3月2日、少し冷たい春の雨の降る中、垂水高校の創立100周年記念第78回卒業式に出席しました。在校生、保護者の見守る中、普通科8名、生活デザイン科16名の卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。数々の学びや行事等を経て、自信を持って社会へ、次の学校へと巣立っていく姿は堂々としていました。彼らの前途に、希望がたくさんあるといいなと思ったところです。</p> <p>先週の児童クラブでのことですが、1年生の子供たちが珍しく、全員タブレットを持って帰ってきました。「今日は6年生を送る会だった。」「すごく楽しかった。」「泣いている人もいたよ。」「僕も泣きそうだった。」などと、口々にしながら、帰って</p>

	<p>きたので、みんなどうしてタブレット持ってるのと聞いたところ、「送る会で踊ったダンスを、先生がタブレットに送ったから、家で見るんだよ。」ということでした。</p> <p>こんな活用ができるんだと思って、改めて、そんな機器の活用のすばらしさ知ったところでした。きっと、家族と一緒に見ながら楽しんだのだろうなと思いました。また、6年生を送る会で、1年生の子供たちが、すごく心が動かされているという状況があったこともすごくいいことだなと思いました。</p> <p>2月19日に垂水高校の学校関係者評価委員会に出席しました。年度末の学校評価、生徒、保護者、教職員のアンケート結果の説明がありました。生徒の結果では、「楽しく学校生活を送っている。」「学習活動、行事、部活動が充実している。」において、「そうだ」、「どちらかといえばそうだ」と、9割の生徒が肯定的な回答で、学校生活に十分満足している様子が伺えました。</p> <p>また、「先生の指導に素直に聞く姿勢でいる。」や「集団生活での決まりを守る。」など、礼節をわきまえる姿勢、そして、何よりも「仲良くいじめのない学校生活を送れるよう努力している。」が、ほぼ100%の肯定的回答でした。</p> <p>次に保護者の質問項目には、多くの項目で、100%の肯定的回答か、100%に近い回答でした。保護者がわが子の成長や努力を評価し、学校や先生方への信頼が厚いことが伺えました。</p> <p>職員の自己評価においても、肯定的回答が8割を超えるものをばかりでした。募集定員の確保については、5割強の肯定的回答でしたが、しかし、回答の数値から、先生方が学業や進路指導に非常に熱心に取り組み、生徒と真摯に向かい、生徒から信頼に応える教師集団であるなということが伺えました。</p> <p>職員の記述欄では、「中学生対象の説明会などで、ドレス製作や作品発表会ができるのは、大隅地区で垂水高校が一番盛んであることをアピールしたい。」「これまでどおり、たるたま(学校の広報誌)などで、本校生徒の取組を紹介し、自分たちの頑張りを評価する機会を作ることで、生徒のやる気に繋がると思う。」があり、垂水高校を精一杯盛り立てていく熱意も感じられました。</p> <p>また、令和8年度の定員に対しての入学受験出願率は、例年3割と程度ということでしたが、今回は5割を超えましたとの報告もありました。東進ハイスクール講座の学習支援や、今年度、垂水市役所職員に新規採用されたことなど、垂水高校への進学率の向上に繋がってくれることを期待しております。</p>
<p>吉富委員</p>	<p>3月6日、南日本新聞の紙面で、「人生100年時代、病歴を辿るとした「くらし」面の記事の内容について、興味を持ちましたので、今日はこのことについて触れさせてもらいたいと思います。</p> <p>これを書かれた方は、濱田陸三さんです。実はこの濱田さんは、垂水市と大変縁のある方です。以前、瀬戸口藤吉翁のご家族を招いて開催された「瀬戸口藤吉コンサート」が開催された際、元教育長の川井田先生から招かれていました。それ以来、ご縁があり親しく付き合いをさせていただいています。</p> <p>濱田さんは、今村病院のドクターで、いづろ今村病院健康管理センター部長として勤務されながら、新聞への投稿をされています。執筆は今年から始められたようで、月に1回、今回で3回目の新聞掲載となり、今月の内容は夏目漱石を扱っています。原稿の内容を少し省略しながら読んでいくと、中段くらいですが、「漱石は、12月9日午後6時49分、息を引き取りましたと。死因は胃潰瘍の穿孔による腹腔内出血でした。漱石は一校を卒業した頃から、うつ傾向があったようですが、明治33年ロンドン留学中に神経衰弱に陥りました。さらに基礎疾患として、</p>
	<p>葛迫委員</p>

糖尿病もありました。近年、胃潰瘍の7割から8割にピロリ菌が関与していることが、明らかになりました。ピロリ菌は、乳幼児期に井戸水などから経口感染する細菌です。特に、糖尿病患者には高率にピロリ菌感染が伴うとの報告もあり、漱石の胃潰瘍の原因として、糖尿病が関与したピロリ菌感染の可能性も指摘されています。現在は、ピロリ菌の有無は外来で簡単に検査できます。感染がある場合には、内服薬で除菌することができ、除菌によって、胃潰瘍や胃がんのリスクが減ることが明らかにされています。」

私は、この記事「漱石は一高を卒業した頃からうつ傾向があったようです。」、ここにちょっと注目したのですが、憂鬱、メランコリー現代でいう「うつ病」は、気分がすぐれない、落ち込んだことを指していますが、古来、哲学者や詩人、画家などの人物はメランコリーアである比率が非常に高いとされ、芸術などを創造する文豪や画家が描くメランコリーという寓意画メランコリーという、絵とか彫刻に、構図とこのポーズ描いたり、芸術を行ったり、物を作ったりする作品が、ルネッサンス以降、盛んに描かれているんですが、このことを考えると、うつと「創造する文豪や芸術家」との関係性のありようが垣間見えるようです。文豪夏目漱石もよく写真の中で、頬杖をつくポーズが多く見られるように、この記事を読み感じたところです。

福里委員

2月18日に中学校のPTAが参加しました。今回は前段に1、2年生の合同のPTAがあり、来年度は体育祭が5月に実施されることと、通知表が年2回発行されることが校長先生から説明がありました。PTAに参加されていない方のためにも、後日、まなびポケットで詳しく連絡がありました。中学校では、変更の理由なども、しっかり文面で連絡があり親切でありがたいなと思いました。

また、中学校では4月から校則が大幅に変更されます。自分で考えて行動できるようにと、髪型も、髪を染めることと大きな飾りがついている髪ゴムがバツなだけで、あとは何もルールがなくなりました。学校の願いどおり、自分でしっかり考えて行動できる子になってくれるといいなと思いましたが、やはり、最初はいろいろ出てくるのかなあというふうに感じました。

教育長

私の方から、3月2日、垂水高校の卒業式に出席をいたしました。卒業生、在校生の態度がきちんとしていて、厳かな卒業式が挙行されていました。少し気になったのは、先生方の出席が少ないなど、職員の席を見ながら思いました。おそらく、この日会合等もないと思いますので、何か事情があったのかなというのは思ったところでしたが、3月6日に行われた、小・中学校の校長研修会で、卒業式の日には、学校周辺の巡視とか校舎に残る職員も必要なんですが、極力多くの職員で、子供たちの旅立ちを祝ってくれるように話をしたところでした。

先月下旬に県内公立高校の最終出願者数が発表されました。先ほど、吉富委員からも話がありましたように、県全体の平均倍率が0.77倍と過去最も低いということで、鹿児島市内の一部の高校を除いて、いずれも厳しい状況にあると感じています。どこの学校も振興対策が、大きな課題になっていると聞いております。県教育委員会も、今年度から、県立高校の将来ビジョン検討委員会を立ち上げて、生徒数減少への対応について協議が始まったというところですので、非常に気になっているところです。そんな中、今年の中央中学校の3年生の生徒は70人と非常に少ない人数で、垂水高校の出願状況を心配しておりました。結果、令和7年度の入学者数は普通科7人、生活デザイン科20人の27人でしたが、来年度

の最終出願者数は、普通科21人に、生活デザイン科20人と計41人と増加をいたしました。41人の内訳ですが、中央中学校から6人、鹿屋市31人、鹿児島市内3人、その他1人となっています。垂水市外から35人と増加した主な要因として、こちらで考えているのは、創立100周年記念事業による知名度の向上や、本市の支援策などを、改めて分かりやすいチラシで作成し、それを紙に加えて、電子媒体で保護者のスマホで、いつでも見ていただけるようにしたのが、1つ大きかったのかなと思っています。これから子供の人数が減少していきますので、支援策なしでは状況がさらに厳しくなると考えています。今後も、継続した支援が必要であると思っています。中央中学校に勤務していたとき、ある保護者の方が、「垂水高校なら進学させられるんです。」と、私に話をしてくれたことがありました。保護者に大きな経済的負担がかからないという意味でも、非常に大事なことだと思っていますので、子育て世代にとって、住みやすいまちづくりであるためにも、垂水高校の存続も大事なことと思っていますので、これからも、様々な取り組みの充実に努めていく必要があるというふうに考えているところです。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長

2月10日から3月10日までの主な行事等について各課長が報告。  
併せて、3月11日から4月9日までの行事予定についてお知らせした。

7 閉会